

大学コンソーシアム京都インターンシップ・プログラム
長期プロジェクトコース プロジェクト報告書

一般社団法人 Impact Hub Kyoto

山本陽士 林泰誠

11月11日

地域フィールドラボプロジェクト
成果発表

我々が活動した地域フィールドラボプロジェクトとは、京都市北部に位置し、「都の源泉」として知られる花背地域が舞台です。インターン生はそれぞれの五感を最大限、働かせながら、花脊地域の良さと課題を発見することで、花背地域のこれからの産業・文化・自然を守り育てていくプロジェクトです。

活動場所の花背地域は北部山間地域と呼ばれており、広河原、花脊、別所の三つの地域を併せて花脊地域と呼ばれています。

活動の目的は大きく分けて4つあります。まずフィールドワークから地域課題と地域資源を発見し、多様な社会人と共創していく機会を通じて、解決策を模索しアイデアを実践に移す能力の獲得が一つの目的となります。2つ目に学生の価値観や視点を活用したアイデアを花脊地域に提示することです。3つ目に学生が花背地域に長期間、関わりやすくなるような仕組みづくりです。最後に生業の創出支援です。ここでの生業の定義は、地域資源を生かし経済・文化・自然を活性化し、市民の生活基盤を安定させるための仕事を指します。

我々の具体的な活動内容として9月17～19日に行われた花背ワンダーフォルケについて紹介します。フォルケホイスコーレはデンマーク発祥の17歳以上であれば、だれでも入学できる学校のようなものです。ディスカッション主体の授業形式で対話の大切さを学びながら多様性を育むことができるものになっています。先生と生徒が同じ寮で暮らしながら、自分自身を見つけ出し、見つめ直し、学びを得る場所であり、花脊の古民家でも、本場のフォルケホイスコーレを做って、学びを得ることのできるプログラムが行われました。老若男女問わず、共同でジビエカレーを作り、食卓を囲み、土笛の原料をみんなで山から採取するところから始め、土をふるいにかけて、信楽の土と花脊の土を練りこみ、輪を囲んで土笛を造形しました。また悪天候のため野外でヨガをすることは叶いませんでしたが、古民家の大きな部屋でヨガインストラクターの方のご指導の下ヨガを行い、対話を通して自分自身を見つめ直しました。

また、18日には山歩きを行う予定でしたが、悪天候のため、森インストラクターの方のお話を古民家で聞き、近くにある福田寺に赴いて、インストラクターの方のお話を聞きながら散策しました。お話を聞いている中で生態系の大切さを説いている部分が大変印象的でした。また全国のフォルケホイスコーレ参加者とオンラインで交流しました。お互いに気づいたことや感じたことを共有し、私たちは花脊地域について紹介することが出来ました。フォルケホイスコーレの活動内容は後日 Impact Hub Kyoto のニュースリリースに掲載しました。

次に八丁平湿原を散策しました。八丁平湿原は、西日本では数少ない高層湿原で、京都丹羽高原国定公園の第1種特別地域に指定されています。日本エコツーリズム協会認定ガイド「このガイドさんに会いたい100人」選定。京都府自然環境保全地域/片波川源流域自然観察/ガイドツアーや北桑の森・ガイドツアーなどガイド実績多数の伊藤五美さん案内の元、地域外の人に花脊の大自然の魅力を知ってもらう機会となりました。このイベントを通して、関係人口を増やしたとともに、花脊地域に繰り返し来てくれる人を増やすことができました。

次にちまき笹再生活動の広報活動のお手伝いをしました。地元の小中学生が中心となっている team tell hanase は、祇園祭の当日に四条にある大垣書店の本店にお越しになる

人々にパンフレットやポスター、手作りの笹茶の配布を通じて、花脊地域の歴史やちまき笹を取り巻く課題を伝えました。広報活動は京都新聞に掲載されるほか、佛教大学から公演のオファーを頂きました。インターン生のお手伝いは以上となりますが、その後 team tell hanase は花脊のお祭りで手作りのちまきを販売するまでに至っています。

また、二ホンミツバチの蜂蜜の回収と撮影記録を行いました。Impact Hub Kyoto が所有する古民家の近くで巣箱を設置して、その蜂蜜を採蜜し古民家でパンケーキを焼き、二ホンミツバチの蜂蜜を楽しみました。このワークショップでは、五感を通じて花脊の良さと課題を知ってもらうことができました。さらに地域外の関係人口を増やすことに成功しました。

そして、サウナ・里山フェスのお手伝いをしました。このイベントには花脊地域内外から多くの人々が集まり、川遊びや鹿バーガーなど、地域資源を味わってもらえました。

同じ時間と場所を共有することで、自然にコミュニケーションが弾んでいました。参加した方々に花脊での良い思い出を持ち帰ってもらえました。

次にみょうが収穫と加工のお手伝いをしました。五感を通じてみょうがが重要な地域資源であることを直接確認しました。6次産業に取り組んでいて、広河原のキーパーソンである方と Impact Hub Kyoto の継続的な関係性を作ることができました。キーパーソンの方と作業を通じてコミュニケーションをとる中で、様々な情報を得て広河原地域で、今後の生業を検討していくための課題や資源を整理することができました。

オープンデイの開催し別所の方々と交流をしました。オープンデイは Impact Hub Kyoto が所有する古民家で月一回のペースで行われている催しで、食事と作業を共にすることによって我々と地域の関係性が深めることができました。

本プロジェクトで得られた成果は二つあります。一つ目に、花脊の魅力と課題を広く世の中へ発信することができました。上記に説明した活動内容からわかる通り、約半年間の活動を通して、インターン生自らが、課題と地域資源を明らかにし、情報発信することができました。二つ目に大学生と花脊の継続的な関係性が確立されました。具体的には、地域の人々に Impact Hub Kyoto のインターン生として花脊で活動していることを知ってもらいました。実際に名刺をお渡しすることや、基本的な挨拶、対話を通じて地域に参画することができました。

次に花背（中山間地域）にもたらした成果は二つあります。一つ目に花脊地域にいろいろな形で加わり、情報発信の材料を集めることができました。これまで点在していた課題や地域資源を我々で整理することで、花脊地域の全体像を把握することに繋がりました。二つ目に実際にワークショップやイベントを通して関係人口を増加させたことです。数々のイベントやワークショップを Impact hub Kyoto 主催で行うことによって、関係人口を増やし、花脊地域のことを知ってもらうことができました。今後もイベント・ワークショップをより良いものにすることや、別の方法考えることでより多くの人や、ビジネスの協働にお手伝いしていただける方に花脊地域のことを知ってもらう必要があると考えています。

最後に今後のビジョンについてです。1つに生業づくりの促進のため、学生が当事者意識を持ちやすい仕組みをつくることです。さらに、この地域フィールドラボプロジェクトが、今回限りではなく継続的に行われ持続可能なプロジェクトにするために、京都の学生

を地域フィールドラボプロジェクトに巻き込む必要があると考えています。また、生業づくりを加速させるために今後必要になることがあると考えます。それが花脊、別所、広河原の連携です。3つの地域の連携により、人手不足を解消しつつ、花脊地域の資源を掛け合わせ、付加価値を生み出し新しいものを開発するという流れです。最後に、我々の活動によって、花脊地域の地域資源や、良さを地域外の人に知っていただいたうえで、地域外の人々が花脊地域の資源を活用することによる、ビジネスの協働の促進を目指しています。以上で地域フィールドラボプロジェクトの成果発表を終わります。